職務経歴書

候補人材：MM

2026 年 9 月 18 日

職務経歴

コンサルティング：2026 年 1 月～現在

現在、ポリイミド材料の合成、電子材料への応用、に関してコンサルティング業務を数社で行っている。ポリイミドに限らず、熱可塑樹脂、熱硬化樹脂のモノマー設計、重合技術の指導。

主な製品例として、ポリイミドを用いた液晶配向剤、汎用ポリイミド、電子写真シームレスベルト、ＬＩＢ負極バインダ、巻線、低誘電被覆材、導電性高分子を用いたＬＩＢコーティングセパレータ、電解液添加剤、アクリル樹脂を用いたＬＩＢ負極バインダ、ＰＰ、ナイロンを用いたＣＦＲＴＰがある。これらの経験を含め指導、育成を行っている。

今後、電子材料の生産、品質管理、などインフラ仕組みづくり、などを含めた全体的フレームづくりにも携わっていく計画。

また、直接的な材料開発だけではなく、技術士総合監理の観点から、プロジェクトマネージメント、科学的思考、特許技術より発明抽出/構成、明細書作成、中間処理、など指導にも対応する。

飛翔ジャパン株式会社：2024 年 3 月～2026 年 1 月

芳香族ポリイミドからなる電子写真部材用高分子材料開発のプロジェクトを進めて進行した。電子写真装置に必須である、転写ベルト部材、定着ベルト部材などの継ぎ目のない（シームレス）ベルトの開発、製造を中国サイトへの指導、設備仕様設計を指導。該社退職に伴い一旦中断したが、今年 7 月より契約形態を変更して再開した。

また、あわせてリチウムイオン電池負極バインダ向け水溶性ポリイミド、可溶性ポリイミドを用いたコーティングセパレータのプロジェクトを進行中。

株式会社 中化学日本総合研究所：2022 年 11 月～2024 年 2 月

電子材料用高分子材料のプロジェクトマネージャーを勤める。プロジェクト計画の立案と実行を担当した。研究開発、施設設計、装置導入、人員採用に渡る幅広い全体計画を作成。現在本社の意思決定部門と最終計画をすり合わせ作業などを経て、プロジェクト進行フェーズへ移行させた。退職に伴い、プロジェクトを引き継ぎため、担当者の教育、開発インフラの整備を完了させた。

また、横浜研究所スタートアップにあたり、設備導入整備、インフラ構築、人事制度設計、安全管理制度設計などの管理業務を行った。

株式会社 大阪ソーダ：2018 年 9 月～2022 年 10 月

ポリイミド開発テーマの立案から、材料開発並びに事業計画を策定を実施した。次いで、電池材料開発グループリーダに着任し、開発の仕組み、材料設計、評価解析チーム組織化、事業戦略策定を推進した。

⑴ポリイミド材料の研究開発

- 第 5 世代(5G)通信システムに要求される、低誘電/低誘電正接性能を具備するポリイミド材料の設計、開発を推進した。ポリイミド材料として最高水準の誘電性能と加工性をもつ材料の目途を得て、顧客提案を進行中。

⑵ リチウムイオン電池材料の開発

- リチウムイオン電池負極バインダー用途のポリアクリル樹脂の設計、顧客への提案活動を推進した。開発材料は、顧客要求から中間特性に翻訳したパラメーターを基に設計するやり方で開発したもので、機能メカニズムの斬新性から多くの顧客に興味をもたれ、T 社に導入した。
- 次世代負極バインダーとして、水溶性ポリイミドを開発した。リチウムイオン電池に搭載したところ、従来の SBR、アクリル樹脂に比べて、充放電に伴う容量低下が小さく、電池デバイスの長寿命化できた。
- 2022 年度 NEDO 管轄のグリーンイノベーション基金事業に応募、採択。応募に際して、社内でプロジェクト化を進め、プロジェクトリーダとして技術戦略、組織、計画などの計画策定と運営を遂行した。
- 新規開発棟を含む研究インフラの整備事業をリーディングし、計画立案から実施を遂行した。

⑶その他： 新規材料開発テーマの提案設定

- 自社の固有技術を活用した異業種分野である化粧品材料と光学材料の開発テーマを提案し、設定した。現在、チームメンバの指導を行っている。

富士ゼロックス 株式会社：2003 年 1 月～2018 年 6 月

電子写真に用いられるポリイミド材料の開発チームの立ち上げを行い商品導入した。次いで、新規新事業開発部門に移り、技術開発・事業開拓活動を担当した。技術訴求ストーリーの構築と合致する顧客を調査選定し、新規事業活動を立ち上げた。

⑴ポリイミド材料の研究開発

- 定着ベルト/転写ベルト（電子写真機関部材）に使用するポリイミド材料の最適材料設計と量産化（内製化）を行い、年 3 億円の原価改善と基盤技術体系を構築した。
- 電子材料用樹脂の製造インフラの設計を構築した。クリーン環境からなる製造環境、コンタミを抑制する反応設備、後処理工程、などの電子材料製造に関する基本技術。品質安定化、品質管理体制の構築、生産履歴を基にした生産プロセス改善のためのフィードバック仕組み、などの生産技術の構築。

- 獲得技術をベースに独自技術の水溶性ポリイミドを開発し、多用途への応用を目指す事業化活動を推進した。
- 開発チームの立ち上げと運営を実施し、プロジェクトの加速、効率化のため、社内・社外の部門と積極的に提携を押し進めた。

(2) 高耐久性高性能有機感光体。

- 耐久性の面に優れ、低コスト化が図れる高耐久性高性能有機感光体の分子構造を設計と、特性を発現させるに最適な加工プロセスを構築し、高い電荷輸送性をもち、従来デバイスに対して 2〜3 倍の寿命となる高耐久性高性能有機感光体を開発した。

(3)炭素繊維強化樹脂の研究開発

- 高弾性化の図れる独自処方設計指針を開発し、従来材に比べ 2 倍の弾性率を発現するコンパウンドを開発した。
- 開発技術を用いた新規事業スタディ（市場調査、技術調査、顧客調査）を行い、計画を立案し提案して社内/社外協力部門と協業を仕掛け、早期の事業活動を開始した。
- 各種樹脂（ＰＰ、ＰＥ、ＰＡ、ＰＢＴ、ＰＥＴ、熱可塑ＰＩ、など）からなるコンパウンドの設計と、製造技術の構築を行った。
- 特許活動全般を担当し、調査、出願、権利化を 1 年で完了させ、事業基盤の早期構築を進めた。

株式会社 資生堂：1996 年 1 月～2002 年 12 月

化粧品技術を利用した商品・事業開発業務を行った後、獲得した知見を基に化粧品原料開発、さらには商品開発を行った。

（1）化粧品技術を利用した電子材料分野への新規事業化活動を推進した。液晶表示素子のバックライト関連部材へメーキャップに使用される光制御技術を応用した商材を開発し展示会に出品した。国内外から引き合いを受けて事業化スタディを進めたが、市場トレンドとの整合が取れないとの判断をして撤退した。

（2）化粧品機能材料の開発： 無機材料を主とした光制御材料を開発してメーキャップ・スキンケア商品導入を果たした。

（3）メーキャップ商品の商品開発： 乳化ファンデーションを担当し各種ブランドでの商品を開発した。特徴的な海外向けブランドの開発を主担当した。前記光制御技術、開発材料を用いて新コンセプトを訴求した新ジャンル商品を提案して商品化した。

項目	内容
担当製品	液晶表示素子部材（反射板、半透過反射板、拡散板）
担当業務	新規事業化活動。シート作製技術開発。 新規無機粒子材料の開発。アプリケーション構築。 乳化ファンデーション商品開発。
取得スキル	シート部材製造技術。無機合成技術。乳化技術。

日本合成ゴム 株式会社（現 JSR）：1990 年 4 月～1995 年 12 月

（1）ポリイミド液晶配向材の開発

ステロイド構造を有する新規モノマならびポリイミドを開発し、市場導入を果たした。当時シェア 10～20%程度であったが、開発品の導入が進んだ結果、シェア 80%を超えるまで成長した。その後、モノマバイリエーションを拡大し、市場要求に合致し続けれる技術ポートフォリオを構築した。現在開発より 30 年経過するが、シェア 50%を維持しており長命な技術となっている。

次世代材料として光配向技術にも着手し、開発した材料コンセプトは 20 年経過後に S 社にて実用発表された。

- 液晶配向性、電気特性に優位性の持つ独自分子設計材料の商品化。
- 生産基礎技術開発(機能性モノマー設計、高効率重合プロセスの開発・量産化等)。
- 顧客要求を反映させた個別商品開発と市場導入。
- 液晶表示素子（LCD）の市場拡大に貢献し、後に各種産業賞（市村賞、高分子学会賞、日本化学会賞）を受賞している。
- 開発タスクチームの運営と推進

項目	内容
担当製品	液晶配向剤(ポリイミド材料)
担当業務	要求性能を発現させる機能性モノマーの設計・合成・量産化。 縮合系高分子の重合・量産化。
取得スキル	有機合成技術。高分子重合技術。化学分析一般。 特許調査。明細書作成。 チーム運営とプログラム推進。

アピールポイント

（1）経験業務

分野	内容
技術開発	有機材料、高分子材料、無機材料についての多岐分野で実績と経験もつ。
商品開発	電子材料、化粧品材料ならびに化粧品に渡り、広範な商品の商品開発実績をもつ。
知的財産	調査・分析。明細書作成。権利取得対応できる。
事業開発	電子材料、樹脂材料。
安全	研究所、製造事業所の安全管理委員。
品質管理	電子材料の製造インフラ、クリーンルームの設計。製品品質基準の策定。製造時の品質管理仕組みの構築。

(2)管理業務： 5 名から 20 名程度のチーム運営、管理の経験を有する。少人数で機動的に、メンバー特性を生かした運営を行い、短期間での成果を得ることを心掛けている。

(3)知的財産： 特許出願 339 件、登録特許 259 件（2024 年 12 月）。

(4)学会発表 6 件、投稿論文 6 件。共同研究活動の提案・実行 2 件。

(5)コンサル、技術指導： 取得した技術士資格（化学部門、総合監理部門）を活用して、化成品材料開発、量産技術、業務改善法などの技術指導の経験あり。

- 中国メーカ： 液晶ディスプレイ材料技術に関する技術指導。
- 日本メーカ： 高分子材料の合成、評価技術に関する技術指導。プロジェクトマネージメント講習会開催。